

陽考亭築營滄洲精舍，在此講學，世稱「考亭學派」。

其學大抵窮理以致其知，反躬以踐其實，而以居敬為主，論政則以正君恤民爲旨。他承北宋周敦頤與二程之說，創立宋代的研究哲理的學風，稱爲理學。他認爲聖賢道統之傳，散在方冊，經傳之旨不明，而道統之傳始晦，於是竭其精力，以研窮聖賢之經訓，甚有成就，著作亦多，如《太極圖通書》、《西銘解》、《論語孟子集註》等，皆翊明道之作，他輯定《大學》、《中庸》、《論語》、《孟子》爲四書，作爲教本，儒家的思想經其整理註釋才普遍爲人所瞭解。

宋代理學至朱熹集其大成，《四書註解》爲其精粹，《朱文公集》一百卷收其詩文，清代說經皆以朱子爲宗。宋淳祐年間從祀孔廟，清康熙中葉初爲十哲之次，世稱朱子，又稱朱文公。



## 一、至聖孔子

孔子的名は丘、字は仲尼で、春秋時代今の山東省曲阜の魯国の人である。周の靈王二十一年八月二十七日（前五五一年九月二十八日）に生れ、周の敬王四十一年（前四七九年）に卒した。初め魯国の首都の市長となったが、まもなく司法長官に拔擢され、年五十六にして首相代理となり、大臣少正卯を死刑にし、三ヶ月で大いに治績を挙げた。その後諸国遊歴の旅に出て十三年に及んだが、用いられず、六十八歳の年、魯に帰り、『詩経』・『尚書』を整理し、礼楽を定め、『周易』に註釈を加え、『春秋』を編し、中国文化の礎を造った。七十二歳で世を辞したが、弟子は三千人といわれ、儀礼・音楽・射術・御馬・文学・数学の六芸に秀でる者



は七十二人を数えた。孔子は中国二千年の歴史上最も偉大な教育家・政治家として思想家であった。その哲学思想の中心は現代語ではヒューマニティに相当する仁であり、政治上の抱負も徳治を追求した。しかし生涯に於ける最大の成就是教育に存し、彼は、「教育のみがあつて人類に種類はない」と叫び、貴族の特権であつた教育を貧富貴賤の差別なく平民に施し、在野一個人の力でかくも多くの人材を養成し、且つ技術と人格の教育の一体化を図つた。孔子の偉大な学術体系は歿後門人たちにより承継顕彰され、普及確立し、社会では孔子学団を儒家と呼ぶようになった。中国では漢の武帝以後、歴代の王朝は皆治国の根本理念を儒家思想に求め、孔子を「至聖」ないし「萬世の師表」と尊んだ。



## 孔子廟の 「四配」と「十二哲」 に就いて

孔子廟に於ける祭祀は、由来、孔子の外に、

「四配」や「十哲」と呼ばれる傑出した弟子たちを共に祀る慣わしになつてゐる。初め「四配」はなく、「十哲」のみが設けられていた。

「十哲」のリストは、『論語』先進篇の中の孔子の言葉、

「わたしと陳や蔡で艱難を共にした者」として登場する群像に基いており、道徳の実践者では顔淵・閔子騫・冉伯牛・仲弓、弁舌家では宰我・子貢、政治家では冉有・子路、古典学者では子游・子夏、

合わせて十名である。その後顔淵が「四配」に昇格すると曾子  
を補い、曾子が昇格すると子張。

子有・朱熹を補い、ために「十二哲」となった。



## 二、四配



### (一)、復聖顔回

顔回は字は子淵、顔淵とも呼び、春秋時代魯の国の人で、孔子三十歳年下の弟子であった。一を聞いて十を知る天才のうえに、極めて勤勉であり、そして他人に怒りをうつさず、決して同じ過ちを繰り返さなかった。顔回は貧しい生活をおくり、竹で編んだ弁当入れ一杯の飯と瓢の椀一杯の汁で飢をしのぎ、むさ苦しい裏路地に住み、他人なら堪えきれない辛い毎日を甘い飴の如く、学問を楽しむ心を曲げなかった。孔子が最も高く評価した弟子であり、『論語』の中には顔回に対する絶讃の言葉が多い。本来なら、孔子学団の後継者となるべき人だったが、惜しくも師に先んじて亡くなったため、曾参により代わられた。過度の勉学と營養不良により、二十九歳ですでに頭髮が真白となり、三十二歳で世を去ったと伝えられる。後世「復聖」と尊称したのは、顔回が聖者の至高の境地に達し、私心

に打ち克って儀礼の原点に還り、仁愛を行ったからである。「四配」のトップに置かれている。

### (二)、宗聖曾参

曾参は字を子輿といい、曾皙の子、春秋時代南武城の人にして、孔子より四十歳若く、孔子の門弟のうちでも年少派の一員だった。生れつき孝行で、家が貧しく、労力によって生活の糧を得た。天賦の資質として優れなかったが、孔子の理想とした仁をよく体得できた。彼は仁の概念を忠恕の道つまり真心と思いやりと理解し、その教義を子思に授けて後世に伝えた。曾参が遂に孔子の継承者となった時、年僅か二十七歳に過ぎなかった。彼の学者としての成功は、毎日三度



自らを省りみた慎み深さに負うところが大きい。『大学』と『孝経』は儒家学説の精華を担う二部の古典であって、孔子が学団の正統を伝えるにあたり、特に曾子に口述し、曾子が筆記して成ったものという。後世の人々は曾子を「宗聖」と崇め、すなわち「四配」の第二位である。



### (三) 述聖孔伋

孔伋は字は子思、孔子の孫にして、曾参の弟子にあたる。よく孔子学説の真髓を伝え、その編した『中庸』は儒家哲学の名著と謳われ、多くの箴言を残し、宋・明の時代には理学の祖と仰がれた。片方に激しく偏しない中庸の思想は中国思想史の中でもユニークな存在であり、『中庸』は『大学』・『論語』・『孟子』と並んで四書の一つである。子思が諸国を遊歴して宋と衛に着いた時、国君から丁重な礼遇を受けた。卒年六十二歳、孔子の学説を祖述した意味をこめて、後世「述聖」と尊称された。「四配」の第三位に列べられる。

### (四) 亜聖孟軻

孟軻は魯国の公族孟孫氏の血筋を引く、戦国時代の鄒の人であった。父は早く亡くなり、母 氏に育えられて成長し、子思を師と仰いだ。今に伝わる『孟子』七篇は、門弟たちがその言行を記した書である。孟子の学説は、王道を尊んで覇道を賤しみ、仁義を重んじて功利を軽んじ、性善説を唱え、何人も堯や舜のような聖人になれると説き、中国人の思想に対する影響はあまりにも大きい。孟子は儒学思想を一層発揚宏大させ、後世の儒家は常に孔孟と並び称し、「亜聖」と尊ばれ、「四配」の四番目に列せられている。

## 三、十二哲



## (一)、先賢閔損

閔損は字を子騫といい、春秋時代魯国の人で、孔子の十五歳年下の弟子である。人となりは至って孝行であり、少年の日、継母は彼を虐待して、自分の腹を痛めた二人の男の子には棉入れの厚い衣服を、彼には蘆の草の薄い衣服を着せ、彼は寒さのために父の馬車をうまく御することができなかった。事情を知った父が継母を離縁しようとしたが、子騫は、「母がおれば一人の子だけが寒さに震えますが、母が去ると三人の子が凍えます」と言ったので、父は思いとどまった。この話を伝え聞いた継母は自分の非を悟り、以後子騫を実の子のように扱ったという。魯の季孫氏がその名を慕い、費の町の町長に招こうとしたけれど、子騫は固辞して受けなかった。



## (二)、先賢冉耕

冉耕、字は伯牛、春秋時代魯国の人で、孔子の弟子。冉耕が悪疾を患い、孔子が弟子を死の病床に見舞った時、孔子は窓から手をさし伸べて伯牛の手を握り、

「死は運命の定めだから致し方ないが、それにしても、こんな立派な人がこんな病に罹ろうとは、こんな立派な人がこんな病に罹ろうとは」と嘆いたという。

冉氏父子は二人とも徳行によって孔子に讃められているが、伯牛の事跡は全く尋ねることができず、ただ悪疾つまり癩病を病んで死んだとしか知られていない。

## (三)、先賢冉雍

冉雍、字は仲弓、春秋時代魯国の人である。孔子の弟子にして、年齢は孔子より二十九歳若かった。その父冉耕は身份卑しかったが、仲弓は忠実温厚な人柄であった。それで孔子は彼を批評して、「鋤を曳くまだら牛の子でも、美しい赤毛にととのつた角をいただいていると、人々が神様の供え物にしくなくても、山川





の神々の方で捨てて置かないだろう」と諭えた。また「仲弓は南面して君主となる器だ」と賞讃したこともある。



#### (四)、先賢宰予

宰予の字は子我、宰我ともいい、春秋時代魯国の人で孔子の弟子。弁舌さわやかであるが、言行が一致せず、孔子から、「朽ちた木には彫刻ができず、土のほろぼろになった土塀は上塗りがきかない」とひどく叱られた。非凡な政治手腕の主で、斉国の臨淄の大夫となったが、田常と謀って叛乱を起こし、事敗れて一族とも滅ぼされた。孔子は深く恥とし、「わたしは以前は人の言を聞くだけで信用したが、今ではさらに行為を観察するようにしている。これは宰予がきつかけで変えたのだ」と語った。

#### (五)、先賢端木賜

端木賜は姓を端木、名を賜、字を子貢といい、春秋時代衛の国の人であった。孔子より三十一歳若く、孔子の初期の高弟たちと年少派の中間のメンバーにあた

る。弁舌が巧く、よく未来を見抜き、商賈に長じ、魯と衛の二国の首相を歴任した。孔子の門下で最も富裕な一人であり、人情に厚く、孔子の歿後他の弟子たちは三年墓を守ったが、彼だけは六年守った。『論語』の中では彼の言行が多くの篇幅を飾り、子貢と子路を取り除くと、『論語』は無味乾燥な道德書となってしまう。

#### (六)、先賢冉求

冉求は字は子有、また冉有とも称し、春秋時代の魯国の人。孔子の弟子で、孔子より二十九歳若かった。性格は謙虚で、才能と技芸に優れ、季孫氏の家臣となつた頃、魯が斉に勝った郎の戦いでは、作戦を立て、部隊を指揮するのみならず、



自ら戈を操り敵中に突入した智勇兼備の人物だった。孔子が晩年魯に帰隠し、ひたすらに学問と教育に潜心できたのも、幾らかは子有の庇護を受けたものによる。



## (七)、先賢仲由

仲由は字を子路または季路といい、春秋時代魯国の卞邑に生れた、孔子の九歳しか違わない高弟であった。極めて孝行で、何時も百里外の遠所から米を背負って家郷に帰り、両親を養った。彼は勇者である反面、他人の忠告を虚心に接納する雅量を持ち、そして自らは憚らず発言し、周囲の人に意見する個性で、孔子に問われて真先に答え、孔子に過ちがあれば敢えて諫めるのは決って彼であった。子路は、孔子が費の町に拠って魯の朝廷に謀反した公山弗擾の招聘に応じようとした時、反対して止めさせ、また孔子が衛国で美貌・淫乱の王妃南子に謁見した際も、激しく非難した。だが子路は一番孔子を敬い、孔子も子路を大変可愛がり、もし孔子の悪口を言う者がおれば、子路は命がけでこれと争った。それで孔子は、「子路を弟子にしてからは、あまり自分の悪口を聞かなくなった」と述懐したことがあつた。孔子と子路の師生の情をキリストと使徒ペテロに比する者もおる。子

路は初め季孫氏の執事となり、孔子が魯の国政の衛に当った時分、三桓子の城壁を毀つ政策を助け、孔子の諸国遊歴にも随行し、晩年になり衛の国に出仕したが、公室の内乱に巻き込まれて、非業の最後を遂げた。享年六十三、孔子の歿する一年前にあたり、孔子はその死をいたく悲しみ、「天はわたしに破滅をあたえたと嘆いた。

## (八)、先賢言偃

言偃、字は子游、春秋時代呉国の人で、孔子の弟子、孔子より四十五歳も若かつた。儀礼によく通じ、なかならずく文学で名高く、眼識も深かつた。魯国で武城の町の町長になった頃、孔子からよき部下の有無を問われ、子游は、「澹台滅明な



る者がおり、非常に正直で、路を行くのに決して近路を通らず、公務以外にはわたしの私室に來たことはありません」と答えた。ところが澹台滅明の容貌は醜く、孔子はあまり信じなかった。後年澹台滅明が南方を周遊するに際し、隨き従う門人は三百人を超え、名聲は天下に満ち、世間から子羽を称された。孔子は、「言葉信じて宰我を見損じたが、容貌からは子羽を見誤った」と概嘆した。子羽の墓は江蘇省常熟県西北、虞山の東の麓に葬られている。



### (九)、先賢卜商

卜商は字は子夏、春秋時代衛の国の人、孔子の弟子で、孔子より四十四歳若かった。文学に優れ、詩を愛し、一時魯国で莒父の町の町長をつとめた。子夏は、「教養を身につけ人間形成を志向するには、堅い決心で各分野の該博な知識を求め、何事に対しても注意深く習い、卑近な瑣事から遠大な事柄に及んでいけば、仁愛の境界に達せられる」と述べている。孔子の死後山西省西河に居を定めて人々に学問を講じ、魏の文侯の師となった。門弟は甚だ多く、『論語』も子夏一門によって編纂されたと推測されている。

### (十)、先賢顓孫師

顓孫師は顓孫が姓、師が名、そして子張はその字である。春秋時代陳国の人に於て、孔子の弟子であるが、年は孔子より四十八歳も少なかった。意気軒昂と闊歩し、才識と能力に溢れ、誰も彼を困惑させることができなかった。ただ道德の修業では仁愛の精神に達せず、孔子に教えを乞うた。孔子は、「恭敬・寛容・信実・勤勉・恩恵の五つの美德を尽くせたら仁といえる。何故なら、礼儀正しければ侮られず、寛大であれば好かれ、忠誠によって信頼を受け、努力は成功を促し、慈悲は人心を収攬するからだ」と答えた。子張は子游・子貢・曾子と少壮派グループを形成し、孔子から気概があると讃められ、曾子や子游からも高く認められた。





## (十)、先賢有若

有若は字は子有、春秋時代魯国の人で、孔子の弟子で、孔子より十三歳若かった。有若の容貌が孔子に似ていたため、孔子が逝去すると、師を思念する弟子たちにより孔子の身代りに立てられ、孔子在世のように仕えられた。魯の哀公が、「飢饉の年に、国の経費が不足したら如何すべきか」と問うと、有若は、「どうして一割を徴収する徹の税法を実施しないのですか」と答えた。哀公が、「二割徴収しても足りないのに一割でどうして足りるものか」と反駁すると、今度は、「減税して節約し、先ず民を豊にすれば、君主は不足を憂うる必要がなくなります。もし民が飢えれば、足らないのを足りるようにする方法はありません」と説いたという。呉が魯を侵した時、魯の大夫微虎が呉王を夜襲したその隊伍に有若も加わっており、以って文武両道の士に属したことを窺い知る。

## (四)、先賢朱熹

朱熹は字は元晦、のち仲晦と改めた。卒年七十一、文公と謚名された。宋代、

安徽に生れて建州に寄居し、家庭は貧困であった。幼時から聡明、若くして進士に及第し、宋の王朝の四代の皇帝に仕えて、転運副使・煥章閣待制・秘閣修撰を歴任したが、のち監察御史沈維祖の誣告に遭い、左遷され、齡古稀に垂んとして官を辞して帰隠した。初め崇安に住み、まもなく建陽の雲谷（福建省蘆峯）に草堂を結び、自ら雲谷老人または晦翁と号した。晩年は建陽の考亭に滄州精舎を営み、晦翁と号した。考亭で学を講じたのにより、世に考亭学派と称せられたが、朱熹は宋代最大の理学家で、著作すこぶる多く、『四書注解』が中の精粹にあたり、『朱文公集』二百巻に詩文を収める。清代では理学といえはすべて朱子に則った。清の康熙年間に「十哲」の次に列せられて、「十二哲」となった。

